

平成2年度地域の支え合い仕組みづくり事業
成果まとめ

Don't tell anyone!
地域資源情報を集めて
広めて繋がろう大作戦！

令和3年3月

三浦市地域資源情報プラットフォーム推進協議会

<1 概要>

(1) 背景

①三浦市の特徴

- ・高齢化率40%以上の人口減少が続く1次産業中心の都市。

②これまでの活動

- ・三浦市社会福祉協議会による高齢者コミュニティ観察・育成活動（地域調査・サロン事業など）を実施してきた。

③課題

- ・地域活動は圧倒的に女性が中心。
- ・企業に勤めていたリタイア組は地域との関りが希薄。
- ・団塊世代の高齢化（70代）による引きこもり。
- ・高齢者世代が直面するコロナによる情報入手の困難さ。

*** これらを解決するため、「地域資源情報の受発信」を高齢者の活躍する場とし、高齢者が社会参加することによる生きがい作りにつなげるため当事業を活用することとした。**

(2)目的

三浦市内の活躍の場を見いだせないリタイア後の高齢者が、社会参加のきっかけとなる身近にある地域の良さ＝地域資源を再発見、再発掘し集約する活動に参加し、地域資源情報の集積と発信に貢献できるプラットフォームを作る。

(3)内容

1 地域資源情報受発信サポート事業

- (1) 地域情報受発信事業手引きの作成：
「地域の魅力集め方ハンドブック作り」
- (2) 情報編集能力の向上： スキル向上のための講座プログラム実施

2 地域実態調査及び参加普及事業

- (3) 地域実態調査：高齡者地域活動アンケート調査
- (4) 参加普及事業：地域の皆さんと「まちあるき」実施

3 情報受発信プラットフォーム形成運営事業

- (5) 情報受発信プラットフォーム形成事業：スタッフ教育マニュアル作成
- (6) 情報受発信プラットフォーム運営事業：市民サポーター、運営補助団体育成

4 地域資源活用実践事業

(7) 情報伝達メディア作成発信事業：

壁新聞作り、フリーペーパー、SNS、プロモーションビデオ作成

(8) 出前講座及び交流事業の実施：

小中学校への出前講座、展示体験交流会、多世代との交流会実施

(9) 商品開発：

地域の食材・郷土レシピから商品開発、地域体験ツアー

5 情報リテラシー向上事業

(10) 地域サポーター育成事業：

「スマホリーダー」養成事業

(11) デジタル機器学習講座事業：

パソコン講座、メール講座、スマートフォン講座、SNS講座など
リテラシー向上のための学習会

(4) ゴールイメージ

<地域資源を活用して高齢者が市内外へ発信し地域メディアを活性化>



<市民の定住志向の向上>



<三浦ファン、三浦移住者の増加・地域の活性化>



<三浦市民にシビックプライドの価値観が広まる。>



<三浦市の元気で持続可能な共生社会の実現>

高齢者が地域の元気で持続可能な共生社会の実現を担うこととなり、
地域が元気よく維持されていくことに繋る。

<2 令和2年度の取組>

(1) 計画

1 地域資源情報受発信サポート事業

(1) 地域情報受発信事業手引きの作成：

「地域の魅力集め方ハンドブック作り」

(2) 情報編集能力の向上： 説明会の開催

2 地域実態調査及び参加普及事業

(3) 地域実態調査：高齢者地域活動アンケート調査

(三浦市区長会・交流センター利用者・老人ホーム)

(4) 参加普及事業：地域の皆さんと「まちあるき」実施

3 情報受発信プラットフォーム形成運営事業

(5) 情報受発信プラットフォーム形成事業：スタッフ教育マニュアル作成

(6) 情報受発信プラットフォーム運営事業：市民サポーター、運営補助団体育成のための定期的な運営会議の開催

4 地域資源活用実践事業

(7) 情報伝達メディア作成発信事業：

壁新聞作り、フリーペーパー、SNS、プロモーションビデオ作成

(8) 出前講座及び交流事業の実施：

展示体験交流会、多世代との交流会実施

(9) 商品開発：

地域の食材調査、県立保健福祉大学、関東学院大学、(株) ベイシアとの調整

5 情報リテラシー向上事業

(10) 地域サポーター育成事業：「スマホリーダー」養成事業

(11) デジタル機器学習講座事業：

市内におけるデジタル機器に親しむ活動を行う団体への働きかけ
パソコン講座、メール講座、リテラシー向上のための学習会など
次年度実施のための連携体制の整備

(2) コロナ禍での工夫

- ①各アドバイザーからの助言を、Zoomによるオンラインシステムで併用した。
- ②1月22日（金）市民記者募集説明会でZoomによるオンラインシステムを併用し、参加スタイルをハイブリッドで実施した。

<効果>

- ・市民記者に関心を持った高齢者のほとんどが初めてZOOM会議に体験参加する機会を持った。
- ・コロナ禍で実際に集まることができなくても、オンライン上で意見交換を行うことができた。

(3)実績

1 地域資源情報受発信サポート事業

(1) 地域情報受発信手引き書を作成。

(2) 情報編集能力の向上 :

- * 「1/22地域の魅力発見記者ボランティア説明会」にて
横山豊久氏による「市民記者」のためのアドバイス講座を実施。

2 地域実態調査及び参加普及事業

(3) 地域実態調査 :

- * 12月～1月、三浦市内の高齢者対象にアンケートを実施。
(804名)

(4) 参加普及事業 :

- * 2月～三浦市内の活動団体対象に団体ヒアリング調査を実施。
- * 「1/22地域の魅力発見記者ボランティア説明会」を実施。

3 情報受発信プラットフォーム形成運営事業

- (5) 情報受発信プラットフォーム形成事業：
実施要領・スタッフマニュアル作成中。
- (6) 情報受発信プラットフォーム運営事業：
各アドバイザーによる助言、市民団体育成準備着手。

4 地域資源活用実践事業

- (7) 情報伝達メディア作成発信事業：
壁新聞作成・SNS・プロモーションビデオ発信体体験の実施
- (8) 出前講座及び交流事業の実施：
 - ・ 2/21ニナイテ交流会実施
 - ・ 3/14～市民活動ウィーク
 - ・ 3/21市民交流センターまつり実施
- (9) 商品開発：
県立福祉大学・ベイシア三浦店・関東学院大学と調整中。

5 情報リテラシー向上事業

- (10) 地域サポーター育成事業：
3/25スマホ講習会実施。
- (11) デジタル機器学習講座事業：
パソコンネットワーク・パソコン教室わかばと調整中。

(4)振り返り

実現できたこと：

- ・手引書の作成を通して事業の重要性を再認識した。
- ・地域で活躍する団体と各組織機関とのつながりが見えてきた。

実現できなかったこと：

- ・コロナによって地域へ出向くことが出来なかった。
- ・コロナによって、市民交流センターでの説明会で対象になる方々に直接アプローチが出来なかった。
- ・アドバイザー全員での会議が出来なかった。

<3 令和3年度の取組>

(1)計画

1 地域資源情報受発信サポート事業

(1) 地域情報受発信事業手引きの作成：

「地域の魅力集め方ハンドブック」配布

(区長会・老人クラブ連合会・社会福祉協議会／Web・SNS拡散)

(2) 情報編集能力の向上：興味を誘う講座の実施

2 地域実態調査及び参加普及事業

(3) 地域実態調査：高齢者地域活動アンケート継続調査

(三浦市区長会・交流センター利用者・老人ホーム)

(4) 参加普及事業：説明会の実施

3 情報受発信プラットフォーム形成運営事業

(5) 情報受発信プラットフォーム形成事業：マニュアルに基づいた教育プログラム実施

(6) 情報受発信プラットフォーム運営事業：情報受発信、アーカイブ事業、連絡調整会議、市民サポーター、運営補助団体育成、事業点検

4 地域資源活用実践事業

(7) 情報伝達メディア作成発信事業：

収集された情報の参加者からの発信、効果的な地域メディア機能確立

(8) 出前講座及び交流事業の実施：

参加者によるセミナー、小中学校のへの出前講座、展示体験交流会、多世代との交流会実施

(9) 商品開発：

地域の食材、郷土レシピからの商品開発、人文資源に触れ合う地域体験ツアー試行。

5 情報リテラシー向上事業

(10) 地域サポーター育成事業：

各地区による「スマホリーダー」養成講座の継続実施。

(11) デジタル機器学習講座事業：

市内におけるデジタル機器に親しむ活動を行う団体、通信事業者と連携したパソコン講座、メール講座、リテラシー向上のための講座・啓発の実施。

(2)スケジュール

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域資源情報発信事業	(1) 地域情報発信手引の作成		ディレクター助言				ディレクター助言		取材・デモ実施・検証			ディレクター助言
		手引書配布										
地域資源情報発信サポート事業	(2) 情報編集能力の向上	事業告知		前期講座実施				事業告知		後期講座実施		翌年度スケジュール策定
		継続告知										
地域実態調査事業	(3) 地域実態調査	対象の選定		調査内容の決定			アンケート発送			回収		まとめ
								ヒアリング実施				
地域実態調査及び参加普及	(4) 参加普及事業	説明会・デモ事業告知			説明会デモ開催			説明会・デモ事業告知			説明会デモ開催	
		団体調査対象の選定		調査内容の決定		アンケート発送・ヒアリング実		関連事業へあっせん				
情報発信プラットフォーム形成運営事業	(5) 情報発信プラットフォーム形成事業			継続して運用する。適宜点検修正								
		教育プログラムの適宜実施										
情報発信プラットフォーム	(6) 情報発信プラットフォーム運営事業	連絡調整会議定期開催										
		情報発信事業継続実施		アドバイザー助言			アドバイザー助言				アドバイザー助言	
地域資源活用実践事業	(7) 情報伝達メディア作成発信事業	継続して事業告知			講座①		講座②		講座③		講座④	
		協力者・団体選定依頼										翌年度スケジュール策定
地域資源活用実践事業	(8) 出前講座及び交流事業の実施	協力者・団体選定依頼				セミナー開催			出前講座開催			翌年度スケジュール策定
		交流会準備			事業告知			交流会開催				
地域資源活用実践事業	(9) 商品開発	協力者・団体選定依頼			事業プラン策定		食材系トライアル			食材系トライアル		ベイシアへプレゼン
							ツアー系トライアル				ツアー系トライアル	まとめウェブへ
情報リテラシー向上事業	(10) 地域サポーター育成事業			リーダー・区長向け						リーダー・区長向け		スマホ講座実施
		市民活動グループ発掘・支援										
情報リテラシー向上事業	(11) デジタル機器学習講座事業	協力者・団体選定依頼				講座①		講座②		講座③		講座④
		市民交流Cでの投稿トレーニング							通信キャリア等スタッフ講習会			翌年度スケジュール策定
備考												

< 4 同様の課題を抱える他都市へのアドバイス >

- ・ 高齢者の方々が身近なところで情報集めに気軽に取り組める内容になることが重要である。
- ・ 高齢者が苦手とするデジタル機器の使い方指導を、取り扱いのプロである携帯電話会社の協力を得て講座を開き、苦手意識を克服する機会を提供することができた。地域との連携・協力は重要かつ効果がある。
- ・ 高齢者が家に引きこもることなく、何かを始め、外部の人とつながりを持つきっかけになり、高齢者の生きがいがいづくりに繋げる仕組みになっている。
- ・ コロナ禍でも取り組めることは、これからの新しい生活スタイル設計への汎用性がある。